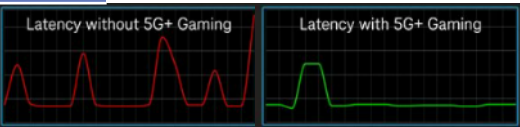


消費者向けネットワークスライシング

独DT、消費者向けNWスライシングゲームオプション「5G+ Gaming」をiPhone向けにも提供開始

DTは、クラウドゲームプラットフォーム「Sora Stream」を提供するALSO、Ludiumと2024年秋に開始した5G+ Gamingの対応機種を拡大した。DTは、今後新たなパートナーを加え、提供範囲を拡大予定。

利用技術	・5G SA、ネットワークスライシング ・ L4S (Low Latency, Low Loss, Scalable Throughput)
提供価値	・500以上のゲームラインアップ ・パフォーマンス向上：スムーズで安定した体験、応答時間・遅延の減少
利用方法	・最新のポストペイドプランに加入 ・Sora Streamに加入 ・5G+ Gamingに申込
料金	・5G+ Gamingは無料 ・Sora Streamは、1週間 1.49ユーロ、1か月 4.99ユーロ、1年 49.99ユーロ ※DT顧客向けの期間限定半額特典の適用時
対応機種	・iPhone15, 16シリーズ ・Galaxy S24, S25シリーズ



遅延比較：左が通常、右が5G+ Gaming利用時

下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

法人向けネットワークスライシング

英BT、ヨットレーシングチャンピオンシップのイベント会場に複数のネットワークスライシングを導入

BTは、Nokiaと協力して、スライシング技術を活用して、ポーツマスで開催されるセイルグランプリの運営および観客体験を向上させた。

ネットワークスライシングの導入

- ・5G SAのスライシング技術を用いて**用途別に2つの専用のネットワークスライスを提供**。これにより、一般顧客の利用によるネットワーク混雑時でも、高性能・高信頼性の通信を確保。
- ・BTが**同時に複数のネットワークスライスを提供したのは今回が初めて**。

用途とサービス

- ・ボートの接続性：レース艇「F50」全12隻のシームレスなローミングと常時接続、通話、テレメトリデータ、動画の伝送。
- ・決済端末：公式グッズショップでの迅速な決済。
- ・放送：4K/フルHDのカメラのライブ配信と高容量アップリンクを活用した新たな放送体験を実現。
- ・メディア：リアルタイムで写真をアップロードできるよう、ソニーのコネクティッドカメラと連携。
- ・360度AR/VR体験：F50の搭乗感をファンが体験可能。

豪Telstra、性能と時間に応じた柔軟な料金体系のネットワークスライシングソリューションを提供

Telstra Dynamic 5Gの概要

利用技術	・5G SA ・ネットワークスライシング
提供価値	・混雑時でも安定した高速通信 ・柔軟な料金体系 ・迅速な導入と展開 ・ネットワーク状況のリアルタイム分析・最適化
料金	・お客様はニーズに合ったプランを選択でき、 必要な性能と時間(1時間単位)だけに料金を支払う ・約束したスライスの性能を達成できなかった場合は、その期間の料金は請求されない
利用の流れ	・営業担当とのコンタクト後、技術者がお客様の拠点における実現可能性と要件を評価 ・技術者が必要なハードウェアを設置し、要件に合わせて設定



各時間の99.5%で、契約速度を達成した場合にのみ課金される。速度は、端末とモバイル網のエッジ(インターネットに接続するポイント)間で測定される。

5G-Advanced

クウェートZain、5G-Advancedを商用化。 価値訴求のため30日間無料トライアルを提供

Zainは、5G-Aネットワークを全土で商用化した。Zainは、5G-A商用化を堅牢なデジタルインフラの構築と6G技術の採用に向けた基盤作りの重要な一歩と考えている。

利用条件

5G-Aは、対応のスマホ、ルーターを持つユーザーが**月額KD15(約7300円)以上のモバイルプランを契約している場合に利用できる**。Zainは、今回商用化を記念して、対象となるポストペイド顧客に30日間の5G-Advanced無料トライアルを提供する。

訴求ポイント

- 5Gより高速：ピーク時でもスムーズなストリーミング、ダウンロード、シームレスなゲーム体験
- 低遅延：クラウドゲーム、ビデオ会議、コネクティッドカー、AIベースのサービスに最適
- よりスマートな帯域幅管理：キャリアアグリゲーションと周波数帯域の拡張により、混雑エリアでもスムーズな通信が可能



米T-Mobile、5G-Advanced全国展開の一環として、低遅延技術L4Sをモバイル網に導入

T-MobileはL4Sがネットワークスライシングの枠組みにおける基盤的な要素として機能すると述べ、これらの機能がまもなく法人向けプロダクトに拡大されるとした。T-Mobileは既に、以下のような低遅延を求めるユースケースに関してL4Sを試験している。

- 遠隔運転：遠隔運転技術を開発するVayと試験し、通信トラフィック量が多く混雑した場合でも一貫して低遅延を実現。
- スマートグラス：QualcommとEricssonと試験し、映像の鮮明さと、めまいの大幅な軽減を確認。
- クラウドゲーム：NVIDIAがGeForce NOWにおいて、L4Sを有効化済み。
- ビデオ通話：混雑した空港ターミナルでもFaceTimeによるスムーズな通話を実現。

T-Mobileは、L4Sを通じて、セルタワーの**無線負荷の状況などをリアルタイム共有することで、VayやAppleなどのパートナーがその場でアプリのパフォーマンスを最適化できるよう支援している。**



6G

フィンランド、6Gに関する戦略的ロードマップを発表

ロードマップは、2024年に設置された政府機関、大学、企業などが参加する6G推進のための作業部会がまとめたもので、国家のビジョンや施策の方向性を示す。

- 目的と背景：フィンランドがモバイルネットワークの先進国として、6Gの研究・開発・標準化において世界をリードし続けることを目指す。
安全性、持続可能性、標準化、イノベーションを柱とした戦略を策定。
- 現状分析：国の技術力やエコシステムの強み、国際競争や資源不足の課題、セキュリティリスクなどを整理。
- 国際枠組み：ITUやEUの標準化・周波数調整の動きに沿った、周波数、規制の整備が重要。
6G導入は 2030年頃と見込む。
- 重点領域：規制・周波数管理、セキュリティ、標準化、研究開発・企業競争力の促進を通じた安全・信頼性・持続可能性の高い6Gの実現を図る。
- 具体的施策例：規制の適正化と国際協調、周波数確保と新規割当、標準化活動の強化、セキュリティ・耐障害性の向上、研究への投資と人材育成、試験インフラの整備、国内企業による技術の国際展開、輸出支援。